



# 学校だより 1月 第352号

横浜市立六つ川西小学校 (TEL) 742-6301 (FAX) 743-2394

URL <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/mutsukawanishi/index.html>

令和2年1月7日 発行

## 「日本について見つめ直すチャンスです」

学校長 小倉 睦

明けましておめでとうございます。

皆様にはご家族お揃いにて希望に満ちた新年をお迎えのことと存じます。今年は、始まりが早いせいか、まだ正月気分が残っているかもしれません。児童は楽しかった年末年始の各家庭でのイベントを終え、希望に胸を膨らませ登校してきてくれました。令和2年(2020年)も六つ川西小学校児童の健やかな成長を願って教育活動を進めていきたいと思えます。

1月の松の内(7日)が過ぎると「鏡開き」が行われます。「鏡開き」はお正月の間、年神様の居場所になっている鏡餅を松の内の過ぎたら、下げて雑煮やお汁粉に入れていただく、年神様をお送りする行事です。鏡餅には年神様の魂が宿っているとされるため、鏡餅を食べることでその力を授けてもらい、1年の家族の無病息災を願うことで知られています。

「鏡開き」は刃物で「切る」ことはよくないと言われ、手か木槌などで「割る」ことになりましたが、縁起を担いで「切る」「割る」と言わず「開く」と言うようになりました。また、鏡を見て自分の姿を直すのと同じで、他人の言動を見て、自分の至らないところを直す「人こそ人の鏡」という諺があります。常日頃より鏡の中の自分を見て、行動、立ち居振る舞いを直すよう心がけるようにしたいものです。

日本の国には、いろいろな行事やいわれがあります。特に1月は、初日の出、初詣出、若水、おとそ、初夢、書初め、出初式、七草……などそれぞれに

由来や過ごし方があります。また、特別丁寧に“お”をつけて「お正月」というのも特別な気持ちの表れですし、1月を「睦月」と呼ぶのも、正月に一家揃って睦み合う様子を表したものです。私たちに日本古来の文化を残してくれている大切な教えだと思います。我々大人がそれらを継承し、次の代へまた次の代へと伝えていかないと、忘れ去られてしまう恐れもあります。家庭や故郷で集まるときや地域での活動に参加する中で、今伝わっているいわれや習わしを話題にしなが、外国にはない日本ならではの伝統を子どもたちが心に留めておいてくれるとよいと思います。そしてやがて国際人になる子どもたちが日本ではこのような新年を過ごすんだと自分の国のことを語ることができる人になってくれることを願っています。

ところで、東日本大震災の被災地に訪れた歌手のさだまさしさんが、「日本人の笑顔」について、次のように語っていました。

被災された方々に声をかけた時、笑顔で迎えてくれ、歌い終わった時にも「わざわざ遠いところ、来てくれてありがとう。」と笑顔で見送ってくれました。この笑顔は、嬉しくて楽しくて出てくる笑顔ではなくて、家族を亡くし、家を無くし、つらい思いをしてどうしようもない気持ちの中での日本人独特の心づかいなのです。と被災された方々と触れ合う中で日本人の真心について振り返っています。

明治時代の文学者・小泉八雲（旧名ラフカディオ・ハーン）は、代表作の「日本人の面影」の中で、悲しいときにも微笑む日本人のふるまいを悲しいときの微笑みは「究極の克己心（欲望の抑える心）にまで達した謙譲」や「他人への気遣い」の表れと読み解いていました。また、西欧で生まれ育って日本国籍を取得した小泉八雲は「日本の面影」の中で自分とは異なる他者や異邦人をやわらかく受け入れる明治の日本人を礼賛してやまみませんと記していました。明治時代からは、大きく時代も変わりましたが、被災地の方々に自然と表れていた「日本人の笑顔」には日本人の真心というDNAが引き継がれていたのかもしれない。

2020年は、東京オリンピック、パラリンピックが開催され、昨年にも増して多くの海外の方が日本を訪れます。今年はまだ以上に、外国語で外国の人とかかわる機会が多くなります。2020年は一人一人が、日本の国のことを知り、日本人のことを聞かれて堂々と日本のことを語るチャンスでもでもあります。学校でも子どもたちに日本の文化、伝統、日本の真心など様々なよさをいろいろな機会を通して伝えていきたいと思えます。

保護者の皆様、地域の皆様、今年もどうぞ温かいご支援ご協力の程、お願い申し上げます。

